



がっこう 学校だより

令和3(2021)年11月1日
横浜市立六浦中学校
校長 込江 茂久

「だれもが 安心して 豊かに」生活できる学校を目指して

しもつき き 霜月に、聴く

こうちょう こみえ しげひさ
校長 込江 茂久

六中でも新しいかたちの学校生活を送っています。たとえば六中祭は展示の部だけを独立させて開催しました。生徒の見学は密にせず、保護者の方の参観も人数を限定しました。来場者から「よかった」との感想をいただくなど、生徒にとって自分の表現をみてもらえたのは嬉しかったことでしょう。

作品はどれも上手で個性的な上、努力や思いが伝わるものばかりでした。このように自分の考えや思いを表現することは、これからの時代を生きていく上で必要な資質能力です。六中でもどんどん進めていきたいと思うところですが、今回の展示見学のように他人の表現から学ぶ機会をととても大切にしたいです。なぜなら、他人の表現を通して、自分の表現を見つめ直すことができるからです。たとえば、自分の思いを整理することは簡単ではないため、自分の思いを表現することはとても難しいものです。こんなとき他人の表現はとても頼りになります。他人の表現によって自分の気持ちに気付いたり、よくぞ私の思いを言ってくれたと手を鳴らしたりすることもあります。まるで鏡のよう。実は私も歌の歌詞に頼ることが多いです。たとえば、自分の仕事と力量について悩んでいた時に出合った歌はYOASOBIの「群青」。「怖くて仕方ない」「踏み込むほど 苦しくなる 痛くもなる」「続けること それは「楽しい」だけじゃない 本当にはできる?」「今でも自信なんかない」…。これらの歌詞が心に刺さるのは自分が歌詞の中の主人公と同じ気持ちだからかと気づき、ふっと冷静になれました。自分を客観的にみることができたのだと思います。さらに続く歌詞のこんな一言が私の気持ちを前向きにします。「それでも」。そう、それでもやるしかないのだ、と覚悟を決めることができました。この歌は、今も背中を押す言葉が欲しいときに聴いています。私にとって勇気をくれる歌のひとつです。

むっちゃんむっちゃん 六中もっの「あ」

あいさつ
挨拶

あたりまえの生活
あたりまえの生活

あいていしき
相手意識をもった行動

あんぜん かんきょう
安全な環境づくり

あんしん かんきょう
安心な環境づくり

あら じぶん
新たな自分づくり